



名前

日付

月

日

答え合わせのポイント・・・自分に厳しく行おう😊

①答え合わせは色ペンで行うこと ②間違いはその場で訂正すること ③点数の記入は不要

例文中の傍線部を和訳しなさい

▼例文

- 1 171-2 身につけておきたいものは、本格的なふみの道である。
- 2 178-1 この夏はおほかた涼しかったので、扇を使うことも忘れたほどだ。
- 3 168-2 「あな、かま」と手で合図して制止するが、相手は気づかない。
- 4 198 はしたなきもの、ひとを呼んでいるのに私ですかと出ていくこと。
- 5 164-2 物語の一部は覚えて語ってくれるが、全部をいかでか覚え語らむ。
- 6 183 息子が気絶してしまったので、親はまどひて願を立てた。
- 7 167-1 夜はまだ深いと思っていたが、夜が明けたのか鶏の声がきこゆ。
- 8 154 かたほなる子でさえ、乳母はあきれるほどまほに見なすものだ。
- 9 158-2 苦しいのは人もみな同じなのか、私だけがしかる身の上なのか。
- 10 156 兄はかく言い、弟はと言うので、どちらが本当かわからない。
- 11 182 人の非難もはばかりず、女との逢瀬を重ねていた。
- 12 186 まわりの人にみな和歌を詠ませはてて、最後に自分が詠む。
- 13 179-2 おのづから殿の悪口を申す者がいたら、容赦なく捕らえよ。
- 14 152 落ちつきのあるまじめな人なので、うしろやすく思う。
- 15 165-3 ここは神聖な場所だから、ふざけたことをなせそ。
- 16 163-3 人にかけての情けは自分に返る。しかしながら情けは自分のためなのだ。
- 17 163-4 むごいお告げだ。しかしながら娘の命を助けるには聞くしかない。
- 18 180 こんな悲しい気持ちは、世の中にまたたぐひあることと思えない。
- 19 194 はじめから、母は娘のこの縁談にこころゆかぬ様子だった。
- 20 196-1 夏は夜が趣深い。月の出ているころはさらなり。
- 21 173 母の話にふたりの子はすげなくいらへて、取り合わなかった。
- 22 178-2 おほかた、ここに住み始めたころは仮住まいのつもりだった。
- 23 184 関白の外出を、大納言ほか多くの人々があ並びて見送りなさる。
- 24 199 夕されば山を越えて私はやって来る。愛しい妻に逢いたくて…
- 25 171-1 老いた母から、急な用件だといってふみがあった。

▼現代語訳

- 1 学問
- 2 だいたい(一般に・全般に)
- 3 ああ(、やかましい)※「しっ静かに」も可
- 4 体裁が悪い・みっともない・ばつがわるい
- 5 どうして覚え語るだろうか、いや語ってくれない
- 6 慌てて
- 7 聞こえる
- 8 不完全な
- 9 そういう
- 10 (兄は)こう(言い)
- 11 気にせず
- 12 終わって
- 13 万一
- 14 安心だ
- 15 してはいけない
- 16 結局・要するに
- 17 しかし
- 18 種類・例
- 19 満足していない
- 20 言うまでもない
- 21 返事をして
- 22 そもそも
- 23 座って
- 24 夕方になると
- 25 手紙

26 161-1 さるべき人は若いときから意志力が強く、神仏のご加護も強い。

27 164-1 「風も吹かないのに、いかで花の散るらむ」と不思議に思う。

28 196-2 叔母と姪の関係なので、ろんなく似かよっていらっしゃる。

29 185 私がしてもいない浮気を、勝手に思ひやりて嫉妬してはいけない。

30 189-2 男はわづらひて、今にも息が絶えそうである。

31 175 大将は酒に酔って、ゆくりもなく大臣家を訪問なさった。

32 192 女は男を思って眠れない。男もはた寝られず、女を恋しく思う。

33 191 家の造り方は夏をむねとすべきである。

34 187 昨夜のことは夢かうつつか、寝ていたのか覚めていたのか。

35 155-2 その歌はよくできていたので、作った本人にしか申し上げた。

36 162-2 立派な子を持つと、父はさるものにて母の喜びは格別である。

37 165-1 私の失敗を人にな語りそ。きっと笑い者になるだろうから。

38 179-1 おのづからやってきた人も、縁先に座してみなと一緒に話をする。

39 163-2 多くの貴重な宝物も燃えて、さながら灰となってしまった。

40 165-2 もう二度とここになこそ。すぐに帰りなさい。

41 162-1 私の極楽往生の願いはさるものにて、ただ娘の結婚を叶えたまえ。

42 163-1 怒って出ていった夫はさながら戻らなかった。

43 197 格子をおろしていると殿が来られたので、おろしさして控えた。

44 193 美しい桜花を見ると、こころをやりて今日を暮らせる。

45 190 身分はお明かしにならないが、しるき身のふるまいである。

46 167-3 中宮が和歌をくださったので、急いで返しの歌をきこゆ。

47 166-1 瀬をはやみ岩にせきとめられた滝川が分かれてまた合流する。

48 176 対面が許された喜びに、すなはち参上いたしました。

49 174 琴や笛を習う場合、まだしきうちは上手な人が羨ましいものだ。

50 168-1 「あはれ、つらい世の中だ」と嘆く隣人の声が壁越しに聞こえる。

26 **立派な**

27 **どうして花が散っているのだろうか**

28 **言うまでもなく、もちろん**

29 **想像して**

30 **病気になって**

31 **突然**

32 **また**

33 **中心**

34 **現実**

35 **そう(=うまいと)**

36 **もちろん**

37 **語らないでほしい**

38 **たまたま**

39 **全部(まるで)**

40 **来ないでほしい・来てはいけない**

41 **それはともかく**

42 **そのまま**

43 **途中でやめて**

44 **気を晴らして**

45 **はっきり現れている**

46 **申し上げる**

47 **浅瀬の流れが速いので**

48 **すぐに**

49 **未熟な**

50 **ああ**